



発行日：2005年3月1日
 発行：宮城県民間非営利活動プラザ
 編集：NPO法人社の伝言板ゆるる
 〒983-0851
 宮城県仙台市宮城野区榴ヶ岡5番地
 TEL：022-256-0505
 FAX：022-256-0533
 E-mail:plaza@miyagi-npo.gr.jp
 http://www.miyagi-npo.gr.jp/






「One to One」は、県内各地でのさまざまなNPO活動により、ひととひとが信頼でつながって、よりよい市民社会が形成されるよう願いを込めたニュースレターです。

学校教育・地域のNPO・プラザ(中間支援)の連携で

みやぎNPOプラザ 主査 佐々木伸

平成13年度から16年度までの4年間にわたって開催された「NPO・青少年協働促進事業」について報告します。私は平成14年度から3年間担当いたしました。この事業によって、NPOの活動

について高校生の理解が深まり、NPOへの関心が高まりました。高校生が自らNPOの実践的ワークショップに参加するなど、事業目的が達成されたように思います。

NPO・青少年協働促進事業		
	「NPOと高校生の架け橋」出前講座	「NPOと高校生が作り上げる実践的ワークショップ」体験活動・NPO地域協働実践事業
実績	県内35高校、77回実施、延べ9,834名が受講	委託事業として30件実施
効果	講義後のアンケート調査から、生徒は、NPOが社会的使命を持って活動する団体であり、社会の中でどのような役割を担っているかを理解した。	NPOが取り組む活動を通じて、問題発見や解決能力の育成、成就感や自尊感情を得るなど、豊かな人間性や価値観を育むことができた。
状況	  	 

これらの事業は平成16年度で終了しますが、事業が青少年に与える影響が多岐であったことから、今後は、学校教育においてNPOとの連携をさらにすすめてほしいと考えています。

学校と地域との連携については、中央教育審議会が、平成10年に、地域住民の学校運営への参画を基本方針に「開かれた学校づくり」の推進を答申し、平成14年には、信頼される学校づくりのために、「学校と学校外との双方向のコミュニケーション」の拡充が必要であるとの指針を示しています。

また、「生きる力」の重要性とその育成については、平成15年8月7日の答申における「新学習指導要領についての基本的な考え方」で、「学校のみで対応できるものではなく、家庭や地域社会などとの密接な連携の下に育成していくことが必要不可欠なものである。」と述べています。

さらには、生涯学習の一環として、あるいは二つ増大への対応のひとつとして、高校生はもとより小中学生の頃から地域のNPO活動等に触れ、社会貢献や、働くことの意味・喜び・楽しさ・誇りを学ぶことも必要ではないかと考えます。

これからの学校が目指すべき方向として、「開かれた学校」、「学校・家庭・地域の連携」、「学社(学校教育、社会教育)連携」等、学校と学校外との結びつきを図ることが求められています。学校が、より一層地域の様々な教育資源を把握し、連携を推進する必要があると思います。

そのためには、学校教育の担い手である教員の意識改革を図る必要があります。学校独自の慣習に囚われるのではなく、地域の中の学校であることを意識しながら学校教育を行わなければならないと考えます。

教員の意識改革を図るための手法

「NPO、学校支援ボランティア等の教育資源との連携」に関する研修を行う。

教員自ら地域活動に積極的に参加し、体験活動をする。

地域の教育委員会・社会福祉協議会・公民館等へ出向き、NPO、学校支援ボランティア等の地域の教育資源との連携方法や活用の仕方について協議する。



農村部におけるNPO活動の可能性



日本全体で少子化が進行し人口の伸び率が鈍化する中、人口は地方から東京へと動き、地方圏でも中核都市への一極集中が加速して、都市部と農村部との格差が広がっています。

今農村部においては、都市部依存ではない自立した個性ある経済・生活圏をつくることが求められています。地域に住む高齢者が元気に暮らし、若者達が幸せを実感できる働き場と生活の場を兼ね備えた地域社会に再生していかなければなりません。

このような中であって、地域再生の担い手や繋ぎ手として、草の根型のNPOが果たす役割が大きくなるとともに、その活動に期待が高まっています。

ここに、農村部におけるNPO活動の想定例を紹介することとします。

▶▶▶ 地域コミュニティの再生型

「地域コミュニティの再生」を意識し、農協・商店街など地域の多様な主体と連携しながら、地域に暮らす人達にとって共通する課題の解決に取り組むNPO活動が挙げられます。

特定の地域やグループ内で有効なコミュニティ通貨（地域通貨）の発行・運営
実践例）本吉町、岩手県遠野市 など

地域の高齢者に対する配食サービスやサービス、子育て相談、健康相談等の地域密着型サービス活動
実践例）岩手県大船渡市

地域の自主防犯、防災など、生活の場である地域の安全・安心を地域で守る活動

地域独自の食材や原材料を活用したスローフード活動、地域の魅力体験などのスロー・ライフ活動
実践例）
スローフード：登米地域、小牛田町、気仙沼市
スロー・ライフ：松山町

知的障がい者や認知症の高齢者等が、地域で自分らしい生活を安心して送れる生活の実現を支援する活動

地域住民が主体となった生活密着型の生活バス、デマンド型乗合タクシー、移動サービスの運営 など

▶▶▶ 地域資源の活用と都市部との交流連携型

地域おこしをミッションとするNPOを主体とした「地域資源の活用」と「都市部との交流連携」による地域再生活動が考えられます。この活動が円滑に運営されるには、農協や役場など地域のさまざまな

団体との連携が何よりも大切と言えます。
事例として、草の根的な「グリーン・ツーリズム活動」が挙げられます。

実践例）鳴子町、田尻町、石巻市田代島、志津川町、岩手県宮古地域・遠野市、青森県尾上町 など
・ 野菜等産地直売・産地料理レストランの運営、農家民宿・市民農園の運営
・ 農作業体験ツアー・炭焼き職人体験ツアー、乗馬体験活動
・ 農家・酒造店（家屋・蔵・庭園等）保存活動
・ 都市住民等を対象としたツーリズム大学の開催 など

▶▶▶ プロデュース型

上記 ・ の他、行政と住民との橋渡し、あるいは、NPO同士、NPOと地域の様々な団体をつなぐ、安定感のあるNPOが必要になってきます。

活動をこれから始めようとしている人や団体運営に悩む人と、並んで一緒に歩き、プロデュースするNPOの存在も欠かせません。

今年各市町村合併の年。各地で行政の枠組みが変わることになりますが、それで地域課題のすべてが解決するものではありません。地域が広域化するほど、地域住民が自ら取り組まなければならない事が見えてくるでしょうし、それらの課題を解決しようとする「市民の力」が問われることとなります。

かつて地域を支えてきた地縁組織は、現在、綻びが生じています。そこで地域のコミュニティを再生するために、地域を横糸で編み直していく作業が必

要になってきています。その作業ができるのは、地域の課題に、思いを共有する仲間とともに取り組む「志縁型NPO」ということになるでしょう。

農村部において、福祉、環境、教育など特定の分野を活動範囲とするNPOを立ち上げる手法もありますが、地域に暮らす人達に共通する課題を、地域の人達と一緒に解決する「地域という業態」の視点に立ったNPO活動の可能性は大きいと思われます。

このように、農村部において、今後、ますますNPOの活動の場が広がっています。これから、まちづくり・むらづくりに思いを馳せるNPOが多く発芽し輪を広げ、地域の壁を取り去って協働（コラボレーション）していくことが、地域再生のカギであると言えます。粘り強く継続して活動していくことを期待したいと思います。

なお、具体的な展開方法については、「持続可能な地域経済の再生（(財)東北開発研究センター)」、「地域再生のまちづくり・むらづくり（山田晴義）」、「自立型地域コミュニティへの道（国土交通省）」等をご参照ください。
(One to One 編集チーム)

宮城県内のNPO支援施設スタッフの情報交換会が開催される！

主催：宮城県民間非営利活動プラザ（みやぎNPOプラザ）

日時：平成17年1月27日（木）

みやぎNPOプラザの運営を受託している杜の伝言板ゆるゆるの企画で開催された情報交換会、今回は県内6ヶ所のNPO支援施設から事務局長やスタッフなど12名が参加しました。

市が直営している気仙沼市民活動支援センターと古川市民活動サポートセンター、公設民営の仙台市民活動サポートセンター、石巻NPO支援オフィス、そして白石市民活動支援センター、公設で行政とNPOのパートナーシップ運営のみやぎNPOプラザと、設置や運営の主体も予算規模も異なる状況ですが、NPOや市民活動団体のサポートを最前線で行う人たちが集まりました。

はじめは、それぞれの団体の活動状況が話され、運営の違いやNPO関係の図書のそろえ方、情報

誌発行の有無、支援事業の内容などを共有しました。中でも開設年度の早い仙台市民活動サポートセンターの支援内容や運営方法に質問が多く寄せられました。



利用者の受け入れについては、地方の施設では登録制にすることで受け入れ団体を明確にしている様子。しかし都市部では、なかなか登録制というわけにはいかず、窓口での日々の判断を迫られるスタッフの悩みなどもあげられました。

このように、NPO支援を共に行なう仲間が一同に会し問題を共有することで、日々の支援に反映させることは必要だとの声も多く、次回はあらかじめテーマ設定した上で課題を持ち寄り会にしたいと方向性も示されました。

プラザからのお知らせ

N PO活動花盛り！さまざまな分野で活動するNPOが、自分たちの活動を発表します！ ……



過去の発表会のようす

みやぎNPOプラザを拠点に活動している11団体が、この1年間に積み重ねた活動内容を発表いたします。いろいろな分野で活動する団体の活動を知る、またとないチャンスです。発表終了後には、飲み物やお菓子を用意して

の、情報交換や交流の時間を設けています。NPOに興味のある方は、この機会に、ぜひご参加ください。

日時 3月6日(日) 13:00~16:30
場所 みやぎNPOプラザ 交流サロン
会費 おひとり100円

[発表団体]

- NPO法人 宮城県断酒会
- NPO法人 チャレンジドネットワークみやぎ
- 社団法人 呆け老人をかかえる家族の会 宮城県支部
- NPO法人 杜の伝言板ゆるる
- アイケア福祉サービス
- 東北HIVコミュニケーションズ
- NPO法人 経営体質改善サポート宮城
- CAP♥みやぎ
- 笑いの出前研究部 みやぎ笑夢プロジェクト
- みやぎヒューマンライフの会
- ユニバーサルファッション工房 繕

(順不同 敬称略)

当 プラザの管理運営が指定管理者制度に移行します！ ……

県が、NPOに関する様々な情報や交流・活動の場の提供など、多様な機能を担う施設として設置したNPOプラザは、管理者制度により管理運営が移行するため、県の機関としての「民間非営利活動プ

ラザ」を平成17年3月末に廃止します。

当施設は、4月から指定管理者の指定を受けたNPOが運営を担うことになります。

休 館日が変わります！ ……

4月から、プラザの休館日が、これまでの水曜から月曜に変更となります。

臨 時休館いたします！ ……

保守日として3月31日(木)は臨時休館いたします。

い つも、ありがとうございます ……

昨年(2005)の2月から、交流サロンに展示しています小原流仙台支部(宮城野ブロック)の生け花も丸1年を迎えました。利用者の多い「交流サロン」にほっとする空間をつくり出していただいています。来館の際には、ぜひ、ご覧ください。



3月の催し

2日	水	第4回みやぎNPOプラザ運営協議会(10:00~)	18日	金	らくらく会計講座「NPO法人に求められる情報公開と決算」(15:00~)
4日	金	講座「ボランティア受け入れのリスクとは？」(18:30~)			主催:みやぎNPOプラザ
		主催:NPO法人杜の伝言板ゆるる			問合せ:NPO法人杜の伝言板ゆるる
		TEL:022-791-9323	20日	日	にぎわいサロン「進路相談会」(12:00~)
4日	金	ヘルパー2級養成講座(日程等はお問合せください)			主催:NPO法人ミヤギユースセンター
ほか		主催:宮城県高齢者生活協同組合			TEL:022-266-5770
		TEL:022-727-6577	21日	月	にぎわいサロン「日韓児童青少年演劇祭2005(ワークショップ)」(14:00~参加無料)
6日	日	イベントアシスタント説明会(10:00~)			主催:地域・国際貢献サークルフォーラ夢
		主催:東北HIVコミュニケーションズ			TEL:090-9037-5556(佐藤)
		TEL:022-298-8532	27日	日	無料相談会(13:00~)
		平成16年度みやぎNPOプラザ町内会活動発表会(13:30~)			主催:宮城県マンション管理士会
		主催:みやぎNPOプラザ町内会			TEL:022-218-2003
		TEL:022-256-0505			にぎわいサロン高齢者福祉シンポジウム(13:00~)
					主催:NPO法人杜の伝言板ゆるる
					TEL:022-791-9323

3月のみやぎNPOプラザ主催イベント

5日(土) おおさき地域NPO・ボランティア・地域づくり団体交流会 14:00~ 古川合同庁舎 大会議室

みやぎのNPOに関する情報は、みやぎNPO情報ネットで！ <http://www.miyagi-npo.gr.jp/>